日文教育資料［小学校社会］

社会科 NAVI+

ナビプラス

小学社会

続・「小学社会」の3次(つぎ)構造とは？

3次(つぎ)構造による社会科で身につけたい力

広島大学大学院准教授　永田忠道

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！
日文 検索

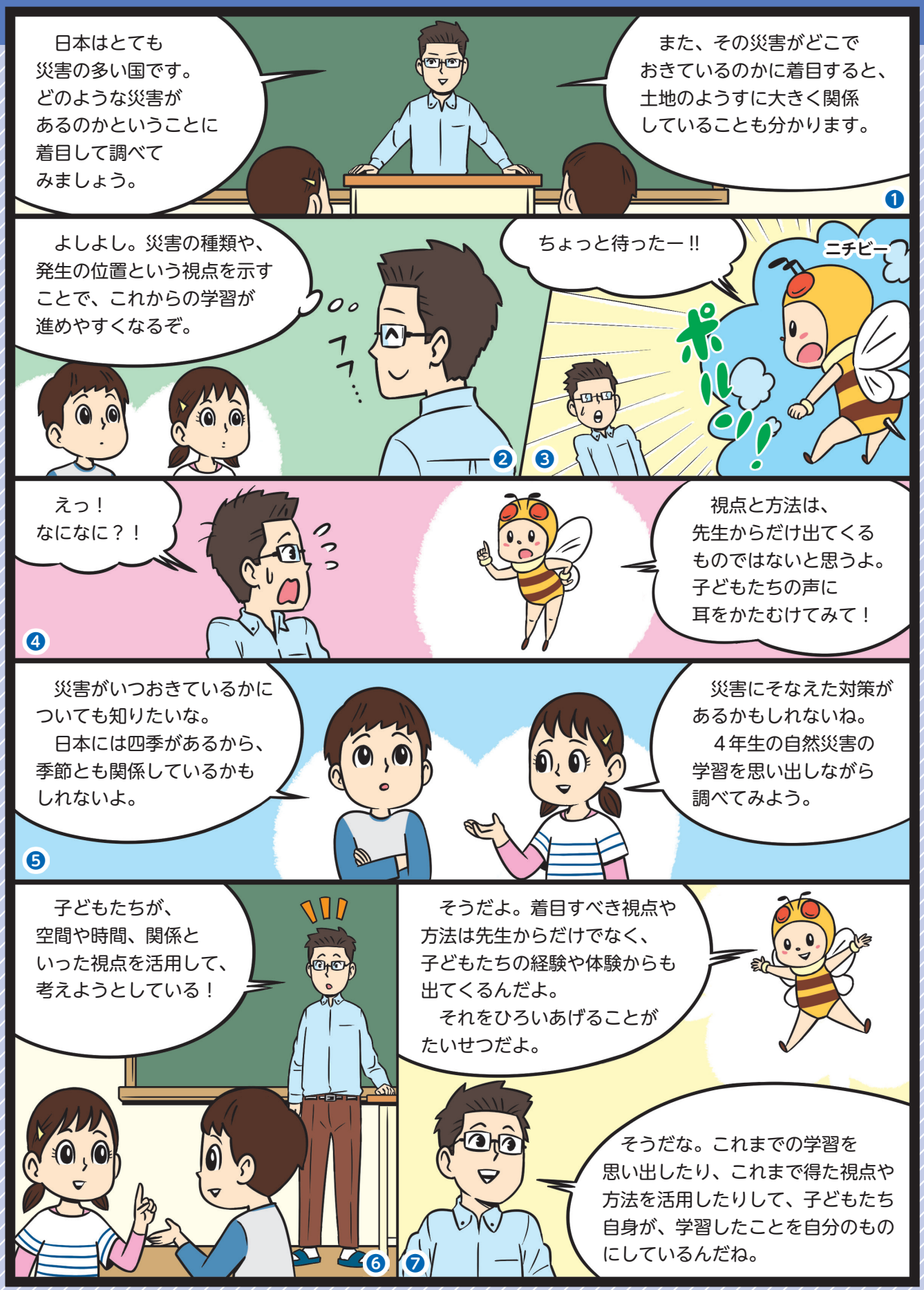
※本冊子掲載QR コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。

※QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

視点と方法を育て、鍛える方法

着目すべき視点と方法には、子どもたちの経験や体験から結びついて出てくるものがある



３次(つぎ)構造の目指すもの

３次(つぎ)構造で子どもに身につけさせたい力の具体例

学習指導要領で示された三つの柱の目標＝期待される資質・能力を、『小学社会』では３次(つぎ)の構造に転換していることになります。第１次(つぎ)の「問題を発見する力を身につける」、第２次(つぎ)の「問題を追究・解決する力を身につける」という学習のスタイルやあり方、構造が単元ごとに進めば進むほど、社会科では第３次(つぎ)の「問題を掘り下げ、よりよい未来をつくる力を身につける」方向へと向かってしまう、あるいは向かわざるを得ないともいえます。

このような構造の中で学びを深めていく子どもたちは、学校の中での社会科授業と現実社会の中での自らの経験や体験とも結びつけながら、社会的な成長へ向けて視点や方法を自ら育て鍛えていくことにもつながっていきます。

本冊子では、社会科 NAVI プラス②に引き続き、３次(つぎ)構造による単元の構成や、日本文教出版『小学社会』の３次(つぎ)構造のさらなる意図について解明していきます。

1　３次構造による社会科で身につけたい力とは？

社会科 NAVI プラス②では、日本文教出版発行の教科書『小学社会』が大切にしている**３次構造**の特色と具体的な学習の姿を解説しました。本号では、まず②のおさらいをしてから、**３次構造**による社会科で身につけたい力について、さらに具体的な学習や授業のあり方を考えていきます。

『小学社会』の**３次構造**は、社会科での「学習の方法」や学習の「段階」「過程」を導くだけの構造ではない点を②で強調しました。改めて、**表1**に示すように、『小学社会』の**３次構造**で目指すのは、社会科で求められる資質・能力の育成にあります。

⬇表1　『小学社会』の３次構造で育成を目指す資質・能力

第１次	問題を発見する力を身につける
第２次	問題を追究・解決する力を身につける
第３次	問題を掘り下げ、よりよい未来をつくる力を身につける

社会科で求められる資質・能力については、現在の教科書の指針となっている 2017 年告示の現行の学習指導要領でも、その重要性がこれまで以上に示されています。2017 年よりも以前の学習指導要領は、社会科で求められる知識を中心とした学習すべき内容が明示されてきました。これに対して現行の学習指導要領では、新たに育成を目指す資質・能力を明確化することを目的に、**「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」**という三つの柱に基づいた目標が明記されることとなりました。

例えば、社会科の第５学年について、三つの柱に基づいた目標は**表2**のように示されています。現行の学習指導要領では、この目標が第５学年の社会科授業において育成を目指す資質･能力ともされています。では、学習指導要領で育成が期待されている資質・能力と、『小学社会』の**３次構造**で育成を目指す資質・能力の関係はどのようになるでしょうか。

簡潔に言うと、学習指導要領で示された三つの柱の目標＝期待される資質・能力を、『小学社会』では**３次の構造に転換している**ことになります。『小学社会』の**第１次**における「問題を発見する力を身につける」ことは、「知識及び技能」を身につけるだけではたどり着くことはできません。同じく**第２次**における「問題を追究･解決する力を身につける」ことは､「思考力、判断力、表現力等」の育成だけでは十分ではありません。**第３次**における「問題を掘り下げ、よりよい未来をつくる力を身につける」についても、「学びに向かう力・人間性等」を養うことだけに関係するものではありません。

学習指導要領で示された三つの柱の目標＝期待される資質・能力のそれぞれの糸を、巧により合わせる役割を担うのが『小学社会』の**３次構造**になります。この点について、第５学年の具体的な単元で考えてみましょう。

⬇表2　現行の学習指導要領における社会科の第５学年の目標＝期待される資質・能力

知識及び技能	我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
学びに向かう力・人間性等	社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

第５学年　小単元「自然災害から人々を守る」の３次構成

第1次

さまざまな自然災害

わたし（たち）の問題

日本では、どのような自然災害がおこっているのだろう。

?いつ、どこで、どのような自然災害がおき、どのような被害があるのだろう。

!日本では、様々な自然災害がおきていて、いつでも、どこでも、だれでも被害にあうかもしれない。

●学習問題につながる子どもの疑問例●

・日本の地形や気候と自然災害には、何か関わりがあるのかな？

学習問題

日本の地形や気候と自然災害には、どのような関わりがあるのだろう。

主な学習活動

年表や写真で日本でおきたおもな自然災害を調べる。

第2次

自然災害がおきやすい国土

わたし（たち）の問題

どうして、自然災害がおこるのだろう。

?どうして日本では、気候に関わる自然災害が多く発生するのだろう。

!日本は、世界でも地震がおきやすい国の一つだ。また、日本は、気候の変化で様々な自然災害がおきやすい国土だ。

主な学習活動

自然災害の発生と地形や気候の関わりを、地図や資料などで調べる。

困難なくらしと支え合う人々

わたし（たち）の問題

自然災害がおこると、わたしたちのくらしはどのようになるのだろう。

?東日本大震災が発生して、どのような被害があったのだろう。

!多くの命が奪われて、建物がこわれた。また、ライフラインが使えずに、交通もストップして、広い範囲で甚大な被害と影響がでた。

主な学習活動

自然災害がくらしにあたえる影響を、写真やグラフなどで調べる。

産業へのえいきょう

わたし（たち）の問題

自然災害がおこると、産業にどのようなえいきょうがあるのだろう。

?東日本大震災によって産業は、どのような被害を受けたのだろう。

!自然災害によって、漁港や水産加工施設などは大きな被害を受け、水あげ量も減少した。

●さらに考えたい問題につながる子どもの疑問例●

・自然災害から命やくらしを守るためには、どうしたらいいのだろう？

さらに考えたい問題

自然災害から命やたいせつなものを守るために、どのような備えや取り組みがおこなわれているのだろう。

主な学習活動

自然災害が産業にあたえる影響を、写真やグラフなどで調べるとともに、学習問題に対する考えをまとめ、話し合う。

第3次

自然災害に備えるために

わたし（たち）の問題

自然災害の被害を防ぐために、どのような取り組みがおこなわれているのだろう。

?国や都道府県、市町村は、どのような防災施設をつくり、役だてているのだろう。

!国や都道府県、市町村は、被害を少なくするために防災施設をつくっている。

主な学習活動

自然災害に備えるための取り組みを、写真や資料で調べる。

自分たちの命と地域は自分たちで守る

わたし（たち）の問題

自分の命を守るためには、どうすればよいのだろう。

?自分たちの命を守るために、どのような備えが必要なのだろう。

!公助には限界があり、自分の命は自分で守ることと、地域の人たちで協力し、助け合うことで、地域を守ることが重要なんだ。

主な学習活動

自分の命を守るために、どのような備えが必要か、写真やグラフで調べ、各自の考えを出し合い、話し合う。

2　３次構造による第５学年の具体的な学習の姿

第５学年の小単元「自然災害から人々を守る」は、自分たちの都道府県内の災害に焦点をあてた第４学年の単元「自然災害から人々を守る活動」でも学んできた様々な自然災害を、日本全域となる国土の視点で学習していくことになります。

本小単元の教科書での最初の見開きでは、日本でおきた主な自然災害の写真と年表をもとに、学習問題として「日本の地形や気候と自然災害には、どのような関わりがあるのだろう。」を設定します。

その上で、第５学年で学んできた世界の中での日本の国土のようすを国内の自然災害と重ね合わせながら、自然災害がおきやすい日本の国土の特徴をつかんでいき、そのような国土でおきた甚大な東日本大震災の被害のようすから、産業や生活への大きな影響についても調べることを通して、学習問題に対する自分たちなりの整理を進めていきます。

そして、さらに考えたい問題として「自然災害から命やたいせつなものを守るために、どのような備えや取り組みがおこなわれているのだろう。」を設定して、全国的に進められている自然災害への備えや命を守るための取り組みから、ここでも改めて**私たち自身にできることは何か、私たち自身がすべきことは何か**を考えていくことになります。

このような『小学社会』の第５学年の小単元「自然災害から人々を守る」の構造と、学習指導要領で期待される資質・能力との関係性を考えてみましょう。本小単元は、学習指導要領に示された内容としては、内容 (5)「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」の一部に該当します。内容 (5) の中で自然災害に関連して育成が期待される資質・能力は、**表3**のように示されています。

表3と**表4**を見比べながら、学習指導要領で期待される三つの柱の資質・能力の糸をより合わせて考えて

⬇表3　内容 (5) の中で自然災害に関連して育成が期待される資質・能力

知識及び技能	自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
思考力、判断力、表現力等	災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。
学びに向かう力・人間性等*	我が国の国土の自然環境について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりすること。

⬇表4　第５学年の小単元「自然災害から人々を守る」の３次構造

単元名	小見出し	次	次のねらい
自然災害から人々を守る	さまざまな自然災害	第1次	学習問題「日本の地形や気候と自然災害には、どのような関わりがあるのだろう。」の設定。
	自然災害がおきやすい国土 困難なくらしと支え合う人々 産業へのえいきょう	第2次	第５学年で学んできた世界の中での日本の国土のようすを国内の自然災害と重ね合わせながら、自然災害がおきやすい日本の国土の特徴をつかんでいき、そのような国土でおきた東日本大震災の被害のようすから、産業や生活への大きな影響についても調べ、学習問題に対するまとめを整理する。
	自然災害に備えるために 自分たちの命と地域は自分たちで守る	第3次	第２次末で設定された、さらに考えたい問題「自然災害から命やたいせつなものを守るために、どのような備えや取り組みがおこなわれているのだろう。」の設定と追究。

＊学習指導要領の内容には「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項は示されていないが、ここでは国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の評価規準例を参照して記載している。

いくために、**３次構造**の中では、特に学習問題と学習計画の設定が重要となることを解説してみます。

ここで育成が目指される「知識及び技能」への到達にむけて、どのように「思考力、判断力、表現力等」を働かせていけば良いかを指し示す大きな役割を担うのが、学習問題としての「日本の地形や気候と自然災害には、どのような関わりがあるのだろう。」になります。これは、子どもたちと先生方がいま、ここで何を何のために学ぶのかという学習の動機や原動力を培う資質・能力の育成を、「学習問題を発見する力」として進めていく方法・段階・過程を含みこんだ、最初の構造になります。いま、ここで、**子どもたちに社会科で学び考え身につけてほしい資質・能力を、「学習問題を発見する力」として育んでいくスタイルが、『小学社会』の第１次で目指すものです。**

次に、社会科の学習が単元を通して積み重なっていく中で、「学習問題を発見する力」から、「問題を追究・解決する力」へと接続する際に大事になるのが、**学習問題に対する予想を立てながら、いかにして学習計画を教室の中で組み立てていくか**になります。学習問題の予想から学習計画、学習の展開の際に、**学習指導要領の「思考力、判断力、表現力等」で明記されている「着目」への眼差しが重要です。表3**の「思考力、判断力、表現力等」において「着目」すべきことは、「災害の種類や発生の位置や時期、防災対策など」とされています。この**「着目」すべき視点や方法は、現行の学習指導要領における見方・考え方にあたるものにもなります。**『小学社会』での**第２次**にあたる「問題を追究・解決する力を身につける」具体的な姿とは、**学習問題の予想から学習計画を立てながら学習を展開していく中で、「着目」すべき視点や方法、すなわち見方・考え方を働かせ、そのような資質・能力を鍛え上げていく学びのあり方としての構造とも言えます。**

このような**第１次**と**第２次**を繰り返すなかで、自然と**第３次**にあたる「問題を掘り下げ、よりよい未来をつくる力を身につける」ための学習が展開されていくようになることが理想的です。**第１次**の「問題を発見する力を身につける」、**第２次**の「問題を追究・解決する力を身につける」という学習のスタイルやあり方、構造が単元ごとに進めば進むほど、社会科では

第３次の「問題を掘り下げ、よりよい未来をつくる力を身につける」方向へと向かってしまう、あるいは向かわざるを得ないとも言えます。このような構造の中で学びを深めていく子どもたちは、学校の中での社会科授業と現実社会の中での自らの経験や体験とも結びつけながら、社会的な成長へ向けて、視点や方法を自ら育て鍛えていくことにもつながっていきます。

社会科授業の実例について、詳しくは日本文教出版の YouTube チャンネル「日文チャンネル」でもご紹介しています。「日文チャンネル」内の「社会科にチャレンジ」を視聴いただくと、社会科の授業を通して、学習問題をつくり、学習計画を立てながら、問題解決と探究を展開していく社会科授業の具体と到達の一つのモデルをつかんでいただけます。

永田 忠道（ながた ただみち）
専門分野／教育学、社会認識教育学
主要著書／『深い学びへ誘う社会科の授業づくり』（共著、日本文教出版、2021 年）、（『地域からの社会科の探究』（日本文教出版、2014 年）、『大正自由教育期における社会系教科授業改革の研究』（風間書房、2006 年）
日本文教出版『小学社会』教科書著者

社会科にチャレンジ（日文サイト）
https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/movie/

日文チャンネル

社会科にチャレンジ

CHALLENGE SOCIAL STUDIES

「社会科にチャレンジ」は、日本文教出版の『小学社会』の教科書の監修者のお一人である
永田忠道先生（広島大学大学院准教授）と社会科の実践に日々取り組んでおられる
宗實直樹先生（関西学院初等部教諭）による学習問題をつくる場面での工夫や面白さについてのお話を収録したものです。
小学校の社会科が、いかに魅力的な教科であるかを伝えるコンテンツとなっています。
ぜひ、YouTube「日文チャンネル」で動画をご覧ください。

社会科 NAVI ＋　小学社会⑤

日文教育資料［小学校社会］

令和４年（2022年）８月31日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33601

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690